

NPOで高校生の夏ボラ体験2022

－ 体験前後比較アンケート －

回答件数／体験前 88件、体験後 74件
集計期間／2022年7月10日～2022年8月31日

主な成果

1. ボランティアへの意識が高まり、理解が深まった。
2. NPOがより身近な存在となった。
3. 地域の課題について理解が深まり、解決に向けた活動の存在を知ることができた。

1. ボランティアへの意識・理解が深まった。

「なぜ夏ボラに参加しましたか」「夏ボラに参加して、どのようなことを得たと感じていますか」という体験前後の問いを通じて、ボランティアに対する意識の変化が見られた。

「体験前」は、参加理由のうち「将来・進路を考える機会にしたい(71.6%)」が最も高く、多くの高校生が個人的な成長や周囲からの評価を期待して、夏ボラへの参加を決めたことが伺えた。しかし「体験後」は、「ボランティアへの理解が深まった(76.2%)」が「将来・進路を考える機会になった(55.7%)」を上回り、最も多い回答となった。

このことから、当初は自身の将来や進路のために夏ボラに参加した人が多かったが、夏ボラを通じてボランティアに対する関心や理解が深まり、高校生の意識変化をもたらすきっかけになったことが分かる。

単位:%

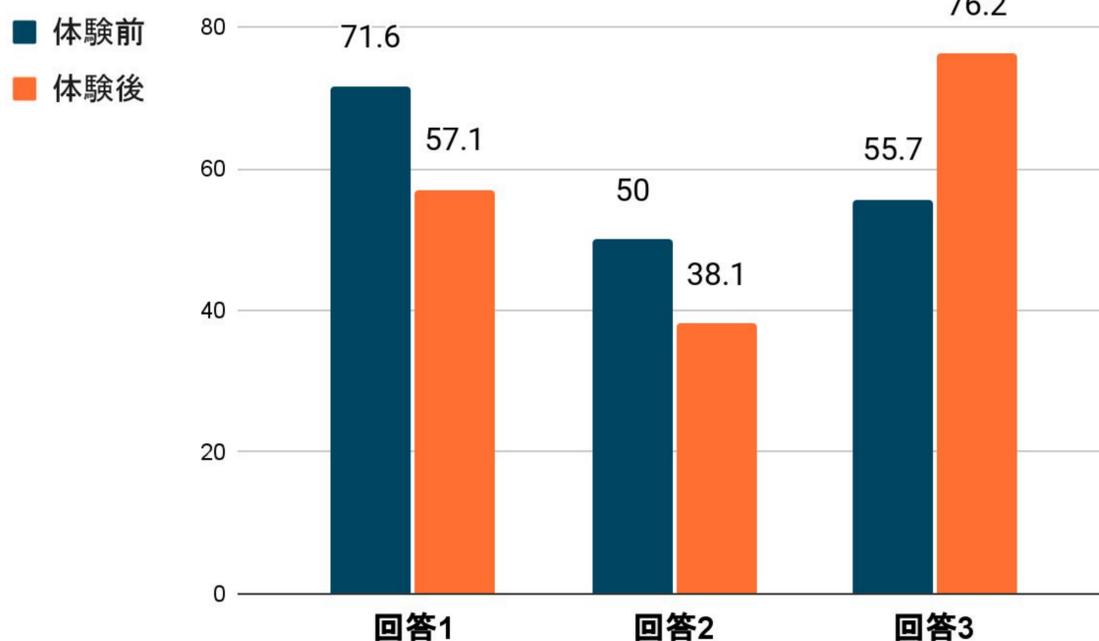


図1

回答1：将来・進路を考える機会にしたい／考える機会になった

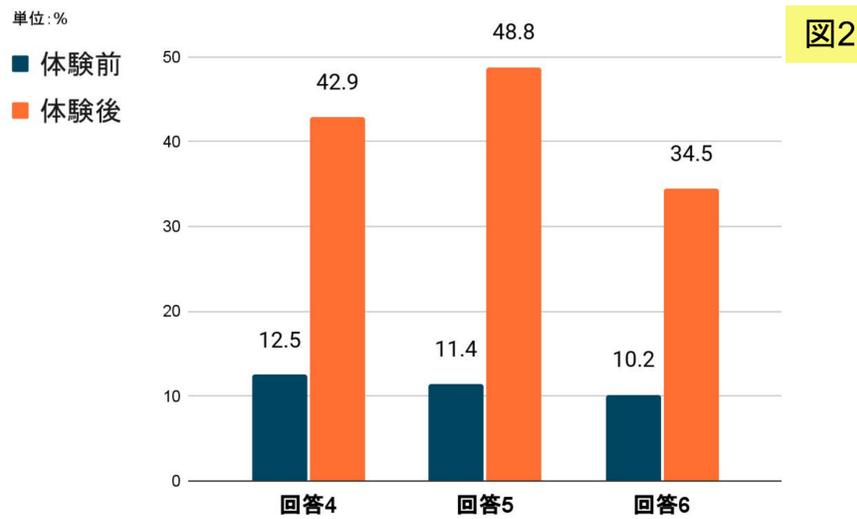
回答2：社会の役に立ちたい／役に立てた

回答3：ボランティアへの理解を深めたい／深まった

2. NPOがより身近な存在となった。

図2から、「NPOの特徴や意義を理解できた」「NPOで働く人の話を聞くことができた」「活動分野の理解が深まった」の回答が体験前後で大幅に増えたことが分かる。体験を通じて、高校生が、それまで曖昧な存在であったNPOの具体的な姿を知り、理解を深めたことが分かる。実際に活動を展開するNPOを見て、話を聞いた経験から、体験先のNPOが取り組んでいる分野に関する理解も深まったようである。

また、図3「NPOで働いてみたい」と回答した人は「体験前」の2人に対し、「体験後」は11人と約6倍に増えており、NPOで働くという選択肢が高校生にとってより身近になったことが伺える。



回答4：NPOの特徴や意義を理解したい／理解できた
 回答5：NPOで働く人の話を聞きたい／聞くことができた
 回答6：NPOが活動する分野の理解を深めたい／深まった

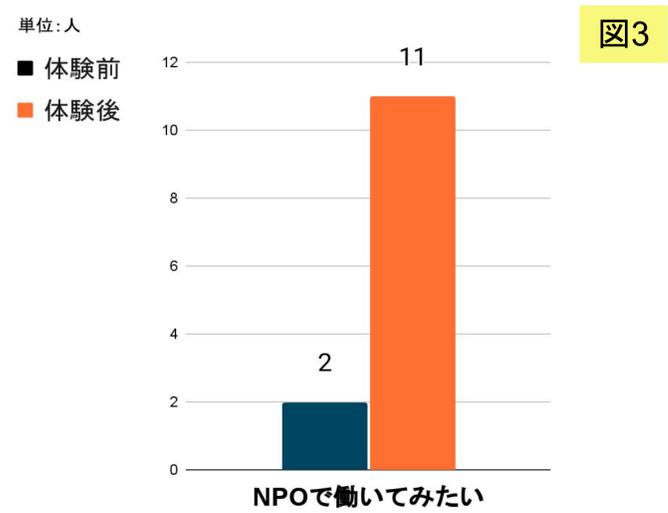
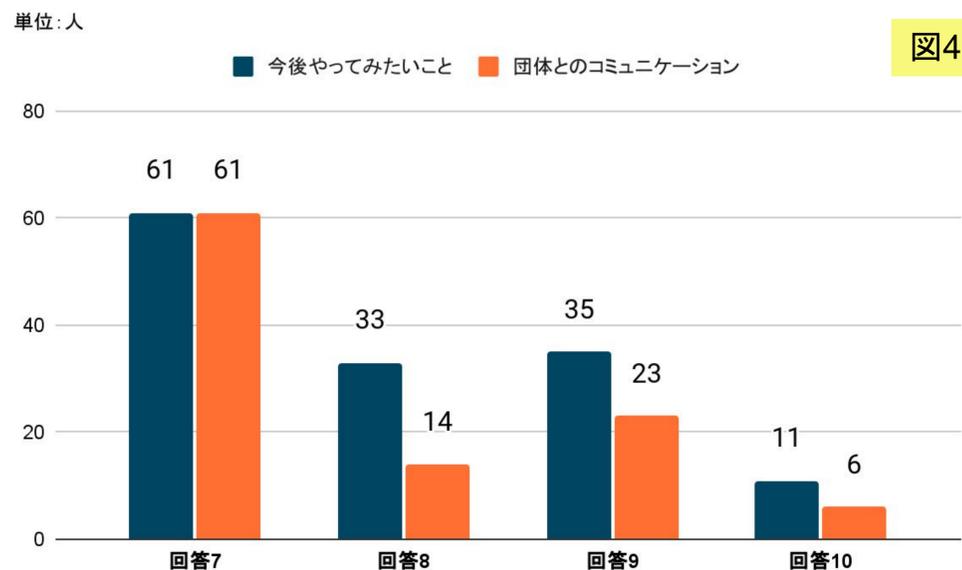


図4は「体験後」の「夏ボラ体験に参加して、今後やってみたいことはありますか」と「団体の人とどのようなやりとりをしましたか」への回答を掛け合わせて検討したものである。

「ボランティアを続けたい」と答えた61人全員が、団体と仕事内容の指示を含めた何らかのコミュニケーションをとっていた。また、それ以外の具体的な行動に繋がる回答した人の約半数が、団体の人から関連する話を聞いていたことが分かる。「地域の課題についてもっと知りたい・学びたい」と思った35人のうち、その66%を占める23人が「地域の課題について教えてもらった」と回答していた。

ボランティア体験の内容だけでなく、NPOで活動する人から実際に話を聞くことが、高校生に大きな影響を与えることが分かる結果である。



回答7：ボランティア活動を続けたい／仕事の内容について指示を受けた、その他のやりとり
 回答8：NPOやボランティアについてもっと学びたい／ボランティア活動の意義を教えてもらった
 回答9：地域の課題についてもっと知りたい・学びたい／地域の課題について教えてもらった
 回答10：NPOで働いてみたい／NPOで働くことについて話を聞いた

高校生にとって、NPOが遠い存在ではなく、身近な組織となったことは「NPOと聞いて、思い浮かぶキーワードを3つ書いてください」という問いへの回答からも浮かび上がってきた。

NPOから連想された言葉のトップ20を比べてみると、「体験前」は第5位であった「地域」という言葉が「体験後」には第2位に浮上している。夏ボラ体験を通して、NPOが「地域」にあり、「地域」の問題に取り組んでいる存在だと知ったことが伺える。

また「体験前」は、「人助け」「慈善」といった抽象的な言葉がキーワードとして挙げられたが、「体験後」には「協働」「繋がり」「人」など、NPOについてより具体的なイメージを持てるようになったことが分かる。

○頻出語トップ20

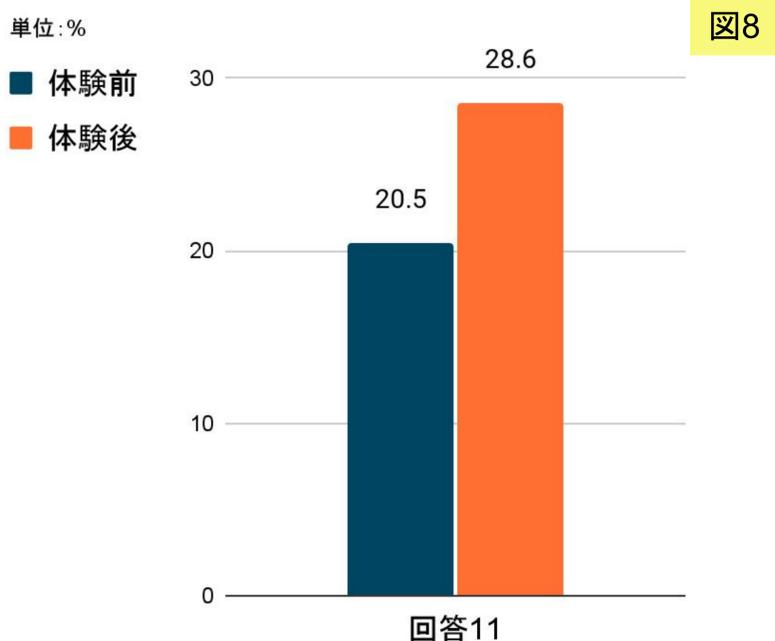
図5

体験前		体験後	
支援	40	ボランティア	50
ボランティア	39	地域	29
福祉	20	非営利	14
子ども	16	支援	12
地域	15	子ども	11
非営利	13	社会	10
団体	12	福祉	10
貢献	11	団体	9
社会	11	活動	8
国際	9	貢献	8
協力	7	人	7
環境	6	協力	5
交流	5	協働	4
人助け	5	繋がり	4
復興	5	組織	4
活動	4	サポート	3
高齢	4	環境	3
災害	3	企業	3
子育て	3	交流	3
慈善	3	高齢	3

3. 地域の課題について理解が深まり、解決に向けた活動の存在を知ることができた。

図8の通り、「体験後」の「地域が抱えている課題への理解が深まった」が、「体験前」の期待を上回る結果となった。夏ボラ体験が、ボランティアの体験としてのみならず、高校生が地域のことを考える機会にもなったことが伺える。

また、「夏ボラに参加してNPOやボランティア、地域の課題について、何か新しい発見はありましたか」の問いでは、地域の課題について理解が深まったことが分かる回答と、具体的な取り組みや自分にできることを挙げている回答が多く見られた。



回答11：地域が抱えている課題への理解を深めたい／深まった

○地域の課題について新たな発見をした例（自由記入）

- ・子どもが遊べる場所の少なさ。
- ・障がいがある方に対しての周りの理解が足りない。
- ・支援を欲している高齢者の発見が難しいことが地域の課題だと思いました。
- ・街中の非バリアフリー、駅前の活気のなさ、化女沼の外来種による環境問題。
- ・介護をする人の高齢化。
- ・移住についての支援や補償制度があること自体の認知度が低い。

○具体的な取り組みや解決策を知った例（自由記入）

- ・市でも街を活性化させるための努力をしていること。
- ・子どもを持つ親のサポートは大事だと思った。
- ・募金や支援をするだけがボランティアではないということ。
- ・人と人との繋がりが非常に重要だと気付きました。
- ・NPOの方々の働きで成り立っている場所や活動がたくさんあることが分かった。

アンケート結果から見えてきたこと・まとめ

「NPOで高校生の夏ボラ体験」は、次世代を担う高校生が地域の課題に気付き、解決に向けて取り組むNPOの活動や役割を知ってもらうことを目的とし、2003年より継続して実施している。今回のアンケート結果から、2022年度の夏ボラも、高校生がNPOやボランティア、地域課題に対する理解を深めるきっかけとなったことが確認でき、今年度の事業目的を達成することができた。次年度は20回目の開催となる節目の年でもあるため、今後も地域のNPOや企業、高校等の協力・応援を得ながら、夏ボラ体験を継続的に実施していきたい。